

園児たちの未来を育む 第一保育所の新園舎が完成

待望の新空間

健やかな成長見守る ぬくもりの新園舎

昭和48年に建築され、今年で築40年以上経過した第一保育所の旧園舎は、外壁がひび割れ、遊具は劣化し、耐震強度も不足していました。昨年5月に改築工事が始まり、約1年間の期間を経て今年5月末に竣工。現在、48人の園児が真新しい園舎・園庭での生活をスタートしています。

完成した新しい園舎は、木造平屋建てで、延べ床面積は約645㎡。「大きな屋根のみんなのいえ」をコンセプトに、旧園舎と比べ約1.3倍の広々とした新空間となっています。「光」と「風」と「木の温もり」に溢れた園舎は、随所に木材を使用。乳児室や保育室はアレルギーを考慮し、「床材」には

化学物質を使わない無垢のひのきを、園児たちが触れやすい「腰壁」には杉板を使用しています。家具・建具も木材で統一し、細部にわたって「木の良さ」にこだわった設計です。

また、「明るさ」にもこだわり、各部屋の大きな窓は、太陽の光を存分に受け入れるとともに開放感を演出。南側には森林があり、豊かな緑が光を和らげ、心地よい風とともに鳥の鳴き声が響き、温かな光と爽やかな風が園舎に入るよう工夫されています。

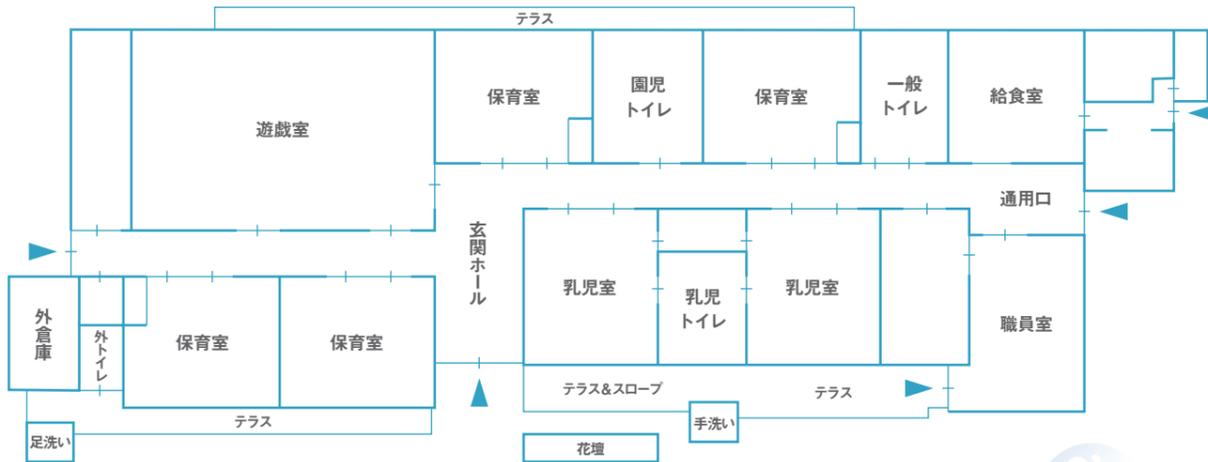
木の温かさ、自然との触れ合いを取り込み、「ホッ」という安心感が包む第一保育所の新園舎。大きな屋根の下で園児たちがたくさん遊び、体験し、たくましく生きる力や可能性を育むことができる新空間が、ここに実現しました。

園児たちの笑顔に負けないピカピカな新園舎。設備の一つ一つにこだわりの設計が施され、園児たちの健やかな成長をずっと見守っていきます。

園児たちの安全を第一に考え、全館にバリアフリー設計が施されています。また、成長段階にあわせた衛生設備やシャワー、オストメイト対応トイレなども設置。



新園舎建設時に要望が一番多かった「遊戯室の充実」。旧園舎にはなかった発表用のステージが新設され、天井も吹き抜けにして明るさを確保。入園式や生活発表会はもちろん、雨の日の室内運動も可能な広々とした空間になりました。



新園舎は採光や風通しを計算し、長屋型に設計。北向きの園舎で日差しの影響を抑え、省エネルギーかつ快適な住空間を演出しています。



Interview 森野るみ子 園長

思いが深い旧園舎がなくなるのはさみしいですが、新園舎でも日々園児たちが笑顔で過ごせるように職員一同全力を尽くします。園児・保護者・地域・職員がひとつになって、この「みんなのいえ」でたくさんの思い出を作っていきます。

